

四季折々の暮らしの節目に
 人々は豊作を感謝し幸せを祈り
 祭りをおこなってきた。
 祭りはふるさとのなつかしい思い出……。
 目をとじて耳を澄ませば
 面をつけて舞う神楽や祭りの囃子の音が
 浮びあがってくる……。
 毎年夏になると行われる
 地区ごとに祀られている天王様の祭礼。
 それは町に残るとしても素敵な文化。
 今年の夏、ちよつと足を運んで
 その素敵な文化に触れてみませんか。
 特集 お囃子のおはなし 終



池上陽一

竹間沢は結束力が強い。それはみんな地元が好きだから。

作物の豊かな実りに感謝を込めた笛・太鼓

竹間沢共楽会

先 輩たちに声をかけられ始めたお囃子。約30年がたち、現在、約22人が所属する竹間沢共楽会の会長を務める池上陽一さん。竹間神社内に保管されているお囃子の道具を見せてくれました。歴史を感じさせる箱の中にはお囃子で叩く太鼓がありました。

「竹間沢の太鼓は、矢来棒に太鼓を付け、壁や柱にたてかけて叩きます。昔、この辺りは水田地帯だったので、稲わらを干すために矢来棒を使ったことから、この風習になったと言われます。」

この地区の特徴を伺うと「激しく踊る『暴れ天狐』や面白おかしく踊る『ひよつとこ』と、天王様での子ども神輿と一緒に各家を回るのが竹間沢ならではのですね。」とのこと。

池上さんが一番感じていることは「結束力」の強さだといいます。「竹間沢地区の誇りは何より地元の人たちの『結束力』。近所付き合いが希薄になってきたと言われますが、家族総出で参加してくれます。それは地域の皆さんが、地元が好きだからだと思います。これからも地元愛をもってお囃子を続けていきたいです。」

竹間沢のお囃子

竹間沢の囃子は神田囃子、伝えられたのは江戸時代。新座市の大和田地区の大和田ばやしと古くから交流があり、「2つの囃子は人間にたとえたら兄弟。」と地元のお年寄りが語るほど、音色や調子がよく似ています。天王様では、かつて矢来棒に太鼓を付けて大人神輿と一緒に各家を回り、軒先で矢来棒を立てかけてお囃子をしていました。矢来棒とは、水田で稲わらを干すときに使う棒のことで、三芳町ではかつて竹間沢地区にだけ水田がありました。そのため矢来棒を使うのは竹間沢ならではの叩き方といえるでしょう。(右写真参照)。地元、竹間神社の春(4月26日)・天王様(7月20日)・秋(10月8日)の祭礼のほか、以前は大和田ばやしの地元、大和田神社の夏の祭礼に出向いて囃子を奉納していたそうです。



↑柱に立てかけた矢来棒に太鼓を付けて叩く様子。この叩き方は水田があった竹間沢ならではのもの。

- 【町内で行われる夏祭りともよしまつり】
- 7月14日(日) 藤久保の天王様・囃子奉納 所 川越街道沿いの飲食店とんでん並び近く
 - 7月20日(土)・21日(日) 竹間沢の天王様・子ども神輿・囃子・天狗・獅子が区内を巡行 所 歴史民俗資料館ほか各地区
 - 7月25日(木) 北永井の天王様・囃子奉納・子ども神輿 所 稲荷神社
 - 7月27日(土)・28日(日) 上富の天王様・囃子奉納・子ども囃子の披露・子ども神輿 所 旧島田家住宅
 - 8月23日(金)・24日(土) 木ノ宮地藏縁日・上富の囃子奉納 所 木ノ宮地藏堂
 - 9月7日(土) みよしまつり 所 総合運動公園
- 開催時間などの詳細は観光産業課 ☎ 258-0019 (内線 214・215) または文化財保護課 ☎ 258-6655 まで問い合わせください。